

企業価値の拡大に向けて “新しい価値”の創出を加速

トップメッセージ

「変革への挑戦」を繰り返すことで 持続的に成長していく

株主の皆様には、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。また日頃は格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

平成最後の年末年始を迎えることとなり、感慨もひとしおですが、振り返るとDNPは、1876年(明治9年)の創業から、大正、昭和、平成と142年の歴史を歩んできました。この間、私たちは時代に応じて、人々の価値観や企業のニーズの変化を捉えながら、大きく事業内容を変えてきました。特に昭和20年代の戦後の混乱期には、印刷技術の応用・発展によって事業領域を拡大し、「第二の創業」とも言える大きな変革を成し遂げました。その後も、デジタル化の流れを先取りし、情報セキュリティ等の技術を高めるとともに、ライフサイエンスやエネルギー関連の事業などを開発してきました。DNPは

創業以来、常に「変革への挑戦」を続けることで、持続的に成長してきました。

そして今、私たちは、大規模かつ急激に時代が変わっていくなかで、自らが変革を起こしていくことによって、「第三の創業」を実現しようとしています。SDGs(持続可能な開発目標)に代表される社会課題に自ら向き合い、「P&I(印刷と情報)」というDNP独自の強みを掛け合わせて革新的な価値を生み出す「P&Iイノベーション」によって、DNPならではの社会課題解決を果たしていきます。

新しい体験価値を提供するコンテンツビジネス

DNPはこうした考え方に基づいて、4つの成長領域を設定していますが、そのひとつが「知とコミュニケーション」です。この領域では現在、特にアジアを中心に、日本のマンガやアニメなどのコンテンツを活かしたビジ

■DNPの「4つの成長領域」



知とコミュニケーション

世界の人々が安全・安心にコミュニケーションの機会を拡大し、知を交換・継承できる未来

12
兆円

DNPの
事業化テーマ

新たな体験価値を提供する
コンテンツ開発&クリエイター育成

関連市場・
ターゲット数値

日本のコンテンツ市場(2015年)
*内閣府知的財産戦略推進事務局「知的財産戦略に関する基礎資料」



住まいとモビリティ

世界の人々が暮らし、移動するあらゆる生活空間が安全・安心に保たれている未来



食とヘルスケア

世界の人々の生命への不安が解消され、
生涯にわたって、安全・安心で質の高い生活を全うできる未来



環境とエネルギー

地球環境への負荷を減らし、
世界の人々と地球が共生できる持続可能な未来



ネスが大きく成長しています。DNPは出版社をはじめとする多くのコンテンツホルダーとのパートナーシップを強みとして、グローバルに広がるコンテンツ市場において、生活者に新たな体験価値を提供するサービスや、クリエイター育成などの事業を推進しています。

日本の玩具メーカーと協業し、DNPの技術を活かした業務用ゲーム機の関連ビジネスを世界各地で展開しているのもそのひとつです。出版社等との連携もさらに深めており、キャラクター使用権の取り扱いをはじめ、展示会の開催やグッズ製作など、さまざまなコンテンツ関連事業を進めています。DNPの強みとパートナー各社の強みを掛け合わせるこうした取り組みは、自ら変革を起こしていく事例の一部だと捉えています。

*コンテンツビジネスについては「特集」(P3-4)をご参照ください。

当期の業績と今後の見通し

当第2四半期連結累計期間(2018年4月1日～9月30日)につきましては、国内経済は緩やかな回復基調が続いたものの、個人消費が力強さに欠け、地震や豪雨などの自然災害の影響もあり、本格的な回復には至りませんでした。印刷業界では、デジタルコンテンツやインターネット広告の市場拡大などによる紙媒体の需要減少と競争の激化に加え、原材料価格上昇の影響もあり、厳しい経営環境が続きました。

DNPは事業ビジョン「P&Iイノベーション」に基づく価

値の創出に努めるとともに、事業部門やグループ会社の再編など、競争力強化に向けた構造改革に取り組み、企業価値の拡大に向けた活動を推進しました。

その結果、当期間のDNPグループの連結売上高は6,855億円(前年同期比0.3%減)、連結営業利益は228億円(前年同期比34.7%増)、連結経常利益は258億円(前年同期比35.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は169億円(前年同期は214億円の損失)となりました。

また2019年3月期の連結業績は、連結売上高1兆4,200億円(前期比0.5%増)、連結営業利益470億円(前期比1.4%増)、連結経常利益520億円(前期比2.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益280億円(前期比1.8%増)を見込んでいます。

利益の配分については、これまでと同様に株主の皆様への利益還元を経営の重要政策と位置づけて、安定配当を行うことを基本とし、業績や配当性向などを勘案して実行していきます。同時に、将来の事業展開に備えて、内部留保を確保し、経営基盤の強化を図ります。この方針に基づき、当期の中間配当金は、期初計画通り1株につき32円とさせていただきます。期末配当金についても、期初計画通り1株につき32円とさせていただきます。予定です。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導とお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長 よしなり 北島 義斉

[特集]

新たな体験価値を提供する コンテンツビジネス

共創サービスでクールジャパン・ コンテンツの魅力の世界へ

日本には、イラスト、マンガ、アニメーションなど、世界に誇るたくさんの素晴らしいコンテンツがあります。DNPは、そうしたコンテンツを生み出すクリエイティブ業界のパートナー企業と、お互いの強みやサービスを掛け合わせて、新たな事業の創出に努めています。

例えば、アミューズメント業界では、2014年から玩具メーカーの株式会社タカラトミーアーツと協業し、DNPが開発したプリンターやスキャナーを搭載したアーケードゲーム機「プリバラ」*のビジネスに取り組んでいます。

2018年には、DNPが主体となり「プリバラ」の海外展開に着手。タイ王国における「プリバラ」のアニメ放映権などの事業権を獲得し、現地企業と連携して、アニメ番組の配信やアーケードゲーム機事業、イベント事業などのコンテンツビジネスを展開しています。

2018年8月には、「日タイ共創」を目的に毎年1回実施される「バンコク日本博」に出展し、アニメ視聴をはじめ、アニメ映像連動型のゲーム体験、現地アイドルによるプロモーションイベントなどを開催しました。DNPは今後、グローバル市場において、日本発の優れたコンテンツを楽しむ機会を創出し、現地で認められる価値を提供するため、さらなる事業展開を推進していきます。



▲ゲームの結果が出力される「キラキラチケット」



▲DNPが開発したプリンターやスキャナーを搭載したアーケードゲーム機

*「プリバラ」とは？

子供向けのアイドル育成ゲーム。ゲームの得点に応じてアイドルが成長したり、ファッションアイテムを獲得できたりします。アーケードカードゲーム機「プリバラ」とTVアニメ、玩具・グッズなどの相乗効果によって、女の子を中心とした人気コンテンツに成長し、その人気は拡大しています。



ピックアップニュース

2018年7月12日開始

各種コンテンツを活用したグッズを
オーダーメイドできる通販サイト

『FUN'S PROJECT MARKET』を開始

DNPが許諾を得たアニメやマンガ、ゲーム、団体などの各種コンテンツを使用し、利用者自身がWebサイト上でデザインした商品を購入できるオンデマンド通販サイト『FUN'S PROJECT MARKET』を2018年7月に開始しました。

Tシャツやトートバッグなどの商品を選択し、デザインプレート(ひな型)と好きなコンテンツのデータを組み合わせて、オーダーメイドできます。

第1弾商品として、鉄道好きの方に向けて、ブルートレインなどの車両の先頭にある「ヘッドマーク」と行先表示板の「方向幕」のコンテンツをデザインできるサービスがスタートしました。今後は、アニメやマンガ、ゲームなどのキャラクターコンテンツも展開していきます。



JR東日本商品化許諾済み

2018年10月26日～11月12日、11月14日～25日開催
『東京アニメセンター in DNP プラザ』
オープン1周年特別企画
『ボンズ20周年記念展』を開催

DNPは「東京アニメセンター in DNP プラザ」にて、10月28日のオープン1周年と、アニメ制作会社ボンズの設立20周年を記念した『ボンズ20周年記念展』を開催しました。ボンズが長年制作してきた数々のアニメーションの中から21作品を厳選。2週間ごとに展示内容を入れ替えて、企画展オリジナルの声優の音声ガイドとともに、貴重な資料や原画などをお楽しみいただきました。



DNPクリエイター共創サービス FUN'S PROJECT

<https://funs-project.com/>

ファンと作り手・業界を結ぶサービスで 新たな価値を創出

「FUN'S PROJECT(ファンズプロジェクト)」は、「クリエイティブ業界をもっと盛り上げたい!」「あこがれの制作者・クリエイターに近づきたい!」などをテーマに、さまざまな「知る・学ぶ・楽しむ・創る」を体験できるDNPのクリエイター共創・育成サービスです。イラスト、アニメ、マンガ、ゲームなど日本が誇るコンテンツの魅力を発信し、ファンの憧れであるクリエイターやコンテンツの所有者とファン自身をつないでいく取り組みです。

イラストやアニメづくりを学べるオンライン学習サービス「FUN'S PROJECT COLLEGE」、クリエイターとの共創の場「FUN'S PROJECT PARK」、公式キャラクターを自分の好みでレイアウトした商品を1点から作れる通販サービス「FUN'S PROJECT MARKET」なども展開。新しい展示体験や物販、イベントを展開する「東京アニメセンター in DNPプラザ」とも連動しています。



公式キャラクター「ファンズちゃん」



Tokyo Anime Center 東京アニメセンター IN DNP PLAZA

「東京アニメセンター in DNPプラザ」(東京・市谷)の第12回企画展として「『ゲゲゲの鬼太郎』ミュージアム」を開催しました。

(2018年9月28日～10月21日開催)

©水木プロ・フジテレビ・東映アニメーション

クローズアップ

手塚治虫書店

2018年7月13日 開設

国内に続き、DNP・台湾・誠品書店、 手塚プロダクションが共同で 誠品書店の台北敦南店内に開設

DNPは、台湾の誠品書店、手塚プロダクションと共同で、2018年7月、台北市にある誠品書店の台北敦南店内に「手塚治虫書店」を開設しました。また、7月13日から9月2日まで、台北R79店、台中園道店、高雄大遠百店の3店舗でも「手塚治虫書店フェア」を展開しました。

“漫画の神様”と謳われる手塚治虫は、台湾でも広く知られている漫画家の一人で、高い人気を誇っています。今回3社は、2018年の手塚治虫生誕90周年にあわせて「手塚治虫書店」の運営を共同で開始し、従来の手塚ファンに加え、若い世代のマンガファンに対しても、手塚治虫の魅力を広く発信しました。

「手塚治虫書店」は、“手塚治虫関連の書籍が何でも揃う書店”を目指すプロジェクトです。手塚治虫の漫画や関連書籍、電子書籍、絶版作品などを製造・販売するオンデマンド出版など、アナログのプリントとデジタルを融合したハイブリッド型の書店です。2018年12月現在、国内では丸善丸の内本店など、東京・大阪・名古屋・岐阜・淡路島の5店舗で展開しています。



写真提供:誠品書店(台湾)



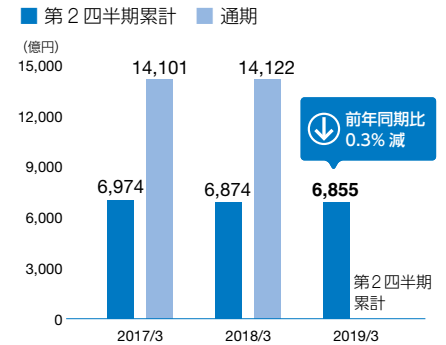
第2四半期決算のご報告 (2018年4月1日～9月30日)

連結業績 当期(2018年4月1日から9月30日)
前期(2017年4月1日から9月30日)

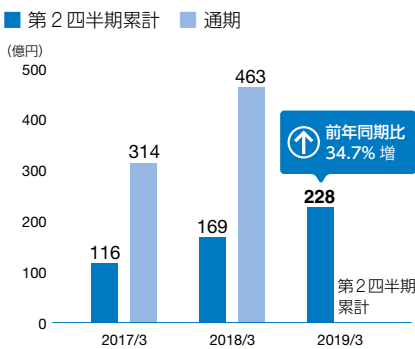
(単位: 億円)

科目	当第2四半期	前第2四半期	増減	連結業績の予想 (2019年3月期通期)
売上高	6,855	6,874	0.3%減	14,200
営業利益	228	169	34.7%増	470
経常利益	258	191	35.3%増	520
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	169	△214	—	280

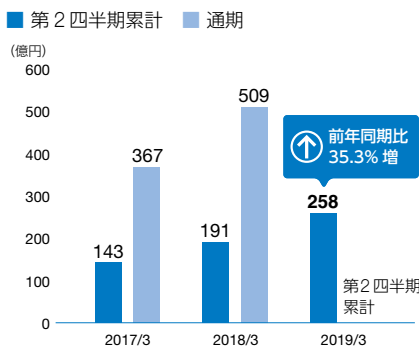
連結売上高



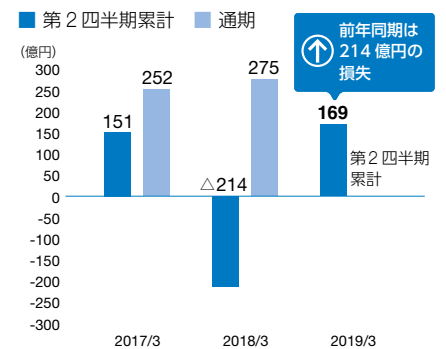
連結営業利益



連結経常利益



親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益



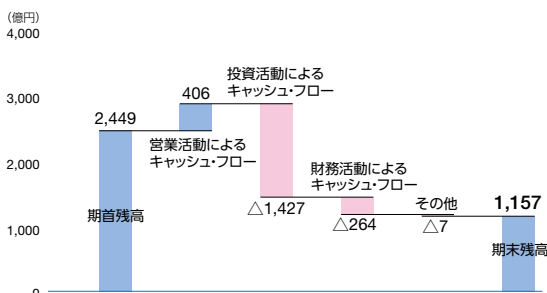
連結財務諸表 (2019年3月期第2四半期)

連結貸借対照表(要約) (単位: 百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末	前連結会計 年度末
資産の部	1,827,628	1,794,764
流動資産	742,257	780,039
固定資産	1,085,370	1,014,724
負債の部	663,019	692,213
流動負債	443,000	438,548
固定負債	220,019	253,664
純資産の部	1,164,608	1,102,550
株主資本	885,547	877,797
その他の包括利益累計額	228,936	175,803
非支配株主持分	50,125	48,950

連結キャッシュ・フロー(要約)

現金及び現金同等物の推移(2018年4月1日から9月30日)



連結損益計算書(要約) (単位: 百万円)

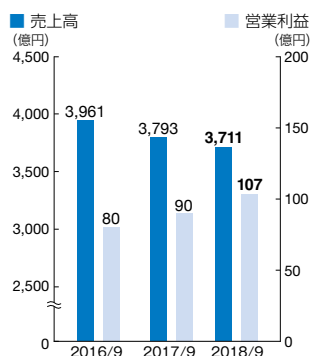
科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
売上高	685,563	687,498
売上原価	547,973	554,354
販売費及び一般管理費	114,758	116,195
営業利益	22,832	16,947
営業外収益	7,021	7,537
営業外費用	4,005	5,378
経常利益	25,848	19,106
特別利益	2,552	8,407
特別損失	1,952	55,691
法人税等合計	7,768	△8,139
四半期純利益	18,680	△20,038
非支配株主に帰属する 四半期純利益	1,747	1,390
親会社株主に帰属する四半期純利益	16,932	△21,428

連結包括利益計算書(要約) (単位: 百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
四半期純利益	18,680	△20,038
その他の包括利益	52,858	34,578
四半期包括利益	71,539	14,539
(内訳) 親会社株主に係る四半期包括利益	70,065	13,311
非支配株主に係る四半期包括利益	1,473	1,228

部門別営業報告

情報コミュニケーション部門

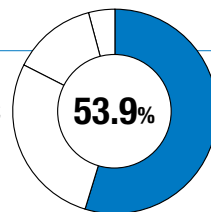


売上高	3,711億円	(前年同期比 2.2%減)
営業利益	107億円	(前年同期比 18.9%増)

売上高は、POPなどの販売促進ツールが堅調に推移しましたが、主婦の友社が連結対象から外れた影響を受けたほか、紙媒体の需要減もあり、前年同期に対して2.2%、82億7,000万円の減収となりました。

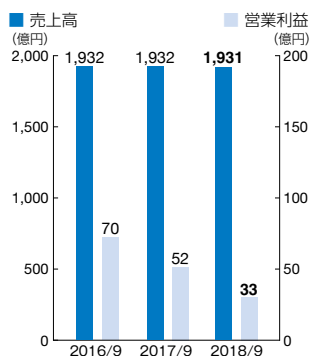
営業利益は、企業の業務を代行するBPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)事業の拡大やコストダウン活動の推進などにより、前年同期から18.9%、17億1,700万円の増益となりました。

売上高構成比



店頭POP広告

生活・産業部門

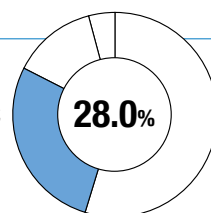


売上高	1,931億円	(前年同期比 0.04%減)
営業利益	33億円	(前年同期比 35.5%減)

売上高は、リチウムイオン電池用パウチなどの産業資材関連が増加しましたが、紙のパッケージやペットボトル用無菌充填システム、住宅用内外装材の販売が減少し、前年同期比で0.04%、7,100万円の減収となりました。

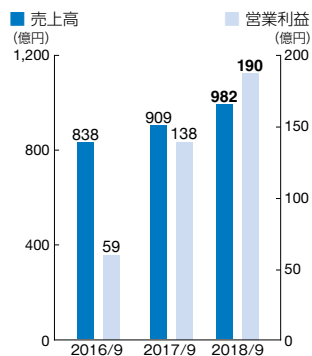
営業利益は、プラスチックフィルムなどの原材料の値上がりにもなうコスト増やその価格転嫁の遅れなどにより、前年同期に対し35.5%、18億6,500万円の減益となりました。

売上高構成比



各種パッケージ

エレクトロニクス部門

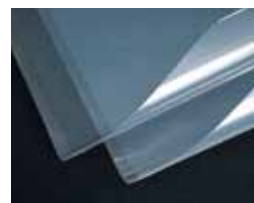
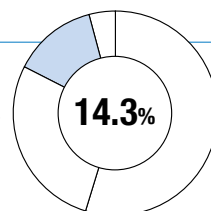


売上高	982億円	(前年同期比 8.1%増)
営業利益	190億円	(前年同期比 37.9%増)

売上高は、半導体製品用フォトマスクおよび、有機ELディスプレイの製造に使用するメタルマスクや薄型ディスプレイ用の各種光学フィルムの販売が好調に推移し、前年同期から8.1%、73億8,400万円の増収となりました。

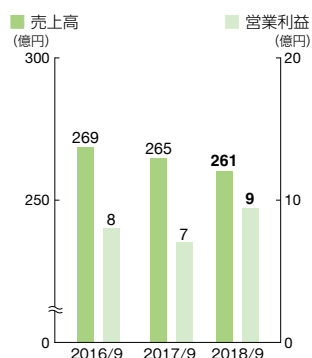
営業利益は、部門全体の増収効果に加え、主力製品の事業拡大にもなう売上総利益率の改善により、前年同期比で37.9%、52億4,300万円の増益となりました。

売上高構成比



液晶ディスプレイ用
反射防止フィルム

清涼飲料部門

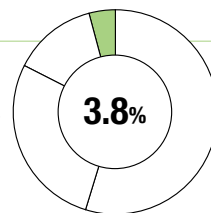


売上高	261億円	(前年同期比 1.4%減)
営業利益	9億円	(前年同期比 33.1%増)

売上高は、「コカ・コーラ」や「ファンタ」のほか、無糖茶飲料が増加しましたが、コーヒー飲料やミネラルウォーターが減少したほか、北海道地域以外のグループボトラーへの販売が減少し、前年同期比1.4%、3億7,500万円の減収となりました。

営業利益は、徹底したコスト削減に努めた結果、前年同期に対して、33.1%、2億3,900万円の増益となりました。

売上高構成比



清涼飲料

ピックアップニュース

パラスポーツとアニメ・マンガ・写真の競演

パラスポーツの普及支援活動「PARA GRAPHICS(パラグラフィックス)」展示を開催

DNPは、パラスポーツ(障がい者スポーツ全体を指して使用しています)の応援を通じて人々の意識や行動に働きかけ、誰もが社会の一員として力を発揮できるユニバーサル社会の実現に取り組んでいます。

その一環として2018年2月から、「東京アニメセンター in DNP プラザ」(東京・市谷)にて「PARA GRAPHICS」展示を行いました。アニメやマンガ、写真というグラフィックが持つ訴求力を通じて、パラスポーツやアスリートの魅力を伝えていく活動のひとつとして開催しました。継続して、東京都や関係各社との新たなスポーツ体験や、法政大学とのイラストコンテストなど、産学連携の取り組みなども展開しています。



▲「PARA GRAPHICS」展示風景

会社情報

商号	大日本印刷株式会社(Dai Nippon Printing Co., Ltd.)
本社所在地	東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
ウェブサイト	https://www.dnp.co.jp/
創業	1876年(明治9年)10月9日
設立年月日	1894年(明治27年)1月19日
資本金	1,144億6,476万円
発行済株式総数	324,240,346株(自己株式22,407,116株を含む)
株主数	27,696名

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	6月
上記総会における議決権の基準日	3月31日 その他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
剰余金の配当基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告により行います。 (当社のウェブサイト https://www.dnp.co.jp/ir/) ただし、事故その他やむを得ない理由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式事務に関するご案内

1. 住所変更、配当金受取方法の変更等のお問い合わせ先、お手続き窓口

- 一般口座(証券会社の口座)にある株式 株主様が口座を開設されている証券会社の本支店
- 特別口座(みずほ信託銀行の口座)にある株式
(お問い合わせ先) みずほ信託銀行 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
(お手続き窓口) みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)

※ご転居の際には、住所変更のお手続きを、必ずお願い申し上げます。

※単元未満株式に関するお知らせ

100株に満たない株式(単元未満株式)を所有されている株主様が、当社に対しその単元未満株式と合わせて1単元(100株)になる数の株式を買増請求できる「単元未満株式の買増制度」を導入しております。また、単元未満株式の買増請求につきましても、お取り扱いしております。

2. 未払配当金のお支払窓口(払渡し期間経過後の配当金領収証によるお受け取り)

- (お支払窓口) みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
みずほ銀行 本店および全国各支店
(取次所) みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)



TOKYO 2020

東京2020オフィシャルパートナー(印刷サービス)

DNP
大日本印刷



TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES

**DNPは、東京2020オリンピック・パラリンピックの
オフィシャルパートナー(印刷サービス)です。**

●株主通信「DNP Report」に関するお問い合わせ先

大日本印刷株式会社 コーポレートコミュニケーション本部IR室

〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 TEL: 03-3266-2111(大代表)

※当株主通信は、DNPの事業ビジョンや業績に関する情報の提供を目的としています。記載された意見および予測は、作成時点でのDNPの判断に基づいたもので、これらの情報の完全性を保証するものではありません。 ※記載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。